

両沼地方稲作情報 第3号

令和6年5月9日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所 (電話0242-83-2112)
" 金山普及所 (電話0241-54-2801)

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区



QRコード

会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

URL : <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36243a/bangehukyu-9.html>

○除草剤はラベル等を確認し、適正に使用しましょう。

○土壌の異常還元（ガス湧き）による障害に注意しましょう。

1 気象情報（気象庁 東北地方 1か月予報（05/04~06/03））

天気は数日の周期で変わるでしょう。降水量は、平年並または多い確率40%です。気温について、1週目、2週目ともに、高い確率50%、3~4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

2 雑草対策

※必ず使用時期、使用方法、対象草種・葉齢をラベル等で確認！

雑草の繁茂は稲の生育を抑制し、また一部雑草（ヒエ・ホタルイ等）は斑点米カメムシ類を誘引し、出穂後の吸汁による落等の原因となります。除草剤を効果的に選択・使用するためには、最低でも発生した雑草をイネ科、カヤツリグサ科、広葉雑草に分類することが重要です。除草剤を適切に使用して防除しましょう。

除草剤による早期防除が重要です！

(1) イネ科雑草（ノビエ等）防除の注意点

- 除草剤によって防除可能なヒエの葉齢が異なります（例えば「移植直後~ノビエ2.5葉期」のように）。
- 初中期一発処理剤を散布する場合は、適用時期の範囲内で、できるだけ早く散布します。

【注意】ヒエが生えてきたのを確認してからでは手遅れの場合があります。

（例えば、確認できたヒエの葉齢が2葉期の場合でも、ほ場全体としては3葉期のヒエが存在する可能性があります）。

(2) カヤツリグサ科雑草（ホタルイなど）防除の注意点

- ホタルイの種子は小さく、農業機械等に付着して地域のほ場に拡散する場合があります。
- 耕耘や代かきの作業は、ホタルイが多発したほ場を後回しにしたり、作業機械を丁寧に掃除する等、地域の発生源とならないように、種子の拡散を防止しましょう。
- 一発処理剤使用後も休眠種子から発生するため、昨年発生が多かったほ場では、中・後期剤も体系的に使用して防除しましょう。

(3) 広葉雑草防除の注意点

- 平たく幅広い形をした葉身をもつ雑草のことで、コナギ、アゼナ類、オモダカがあります。
- 特にオモダカは、塊茎を土中の深いところに形成し、発生期間が長いことで除草剤の影響を回避します。

【注意】一回の除草剤散布で完全に防除することが難しいという特徴があります。

- 昨年発生が多かったほ場では、中・後期剤も体系的に使用して防除しましょう。

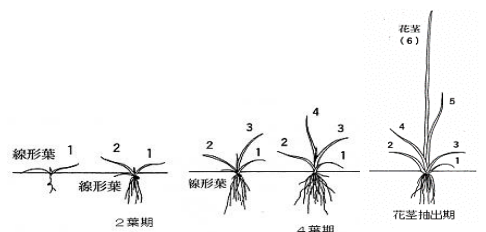
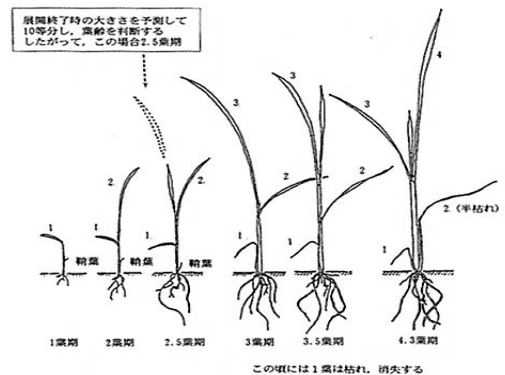


図1：ノビエ(上)及びヒエ(下)

(4) 除草剤が効果を発揮する条件

- ア 田面を均平に整え、漏水防止（畔塗りの実施、2回代かき）に努める。
- イ 雑草の種類・葉齢をよく確認して、適期に散布する。
- ウ 湛水散布の場合はしっかり水管理する。

【湛水散布の水管理】

- ・散布直後に田面水が流れ出ると効果が低下し、残効期間も短くなります。
- ・散布前にしっかりと湛水し、水口・水尻をきちんと止めて除草剤を散布します。
- ・散布後少なくとも4～5日は湛水状態を維持し、散布後7日間は落水しないようにします。
- ・漏水田において水を不足する場合、処理層に影響しないよう静かに入水します。

※自分のほ場に生えている雑草の種類・葉齢をよく確認し、効果が見込める除草剤を選択して、適切な時期・方法で使用しましょう。

- 近年は、多くの水田で土壌表層が剥離し、水面に浮かぶ**表層剥離**が見られます。
- 重度表層剥離では、幼苗の消失、除草剤成分の拡散を妨げる等の影響が生じる場合があります。
- 一時的に落水し田面を干す、活着後浅水で管理する、藻類に効果のある除草剤（モゲトン粒剤等）を散布する等により対策しましょう。

3 いもち病対策

会津での葉いもちの初発は6月下旬です。移植時の箱処理剤や散布剤等で適切に防除しましょう。また、感染源となる補植用置き苗は早急に処分しましょう（埋却する等）。



図2:置き苗から発生したいもち病

4 異常還元（ガス湧き）について

(1) メカニズム

- ・湛水後、気温が急上昇し高温が続くと、鋤込まれた稲わら等の有機物が分解され、有機酸や硫化水素、メタンガス等が発生します（“ガス湧き”した状態）。
- ・ガス湧きした状態では、根は酸欠で呼吸が阻害され、水分や養分を十分に吸収できません。
- ・根はダメージを受けて根腐れし、放置すると腐敗、分げつ停止、生育遅滞、登熟期以降の秋落ちの原因にもなります。
- ・葉色が淡くなりますが、この時に窒素分を追肥すると症状悪化の原因となります。
- ・稲体が弱ることで、除草剤の葉害を受けやすくなります。

(2) 発生時の対策

- ・すぐに落水して3～5日ほど水田を干します。
- ・同時に数メートル間隔に溝切りを行い、表面排水を図るとより効果的です。
- ・これによりガスは空気中へ飛散します（水があるとガスが抜けにくい）。
- ・落水によって土壌中へ酸素が入り、土壌環境が改善されます。

※その後は入水し、有効分げつ確保までは浅水管理を基本とします。

5 農業用水について

積雪が少なく河川の水量不足が考えられるため、今後の降雨の状況によっては、農業用水不足が懸念されます。適切な管理による節水へのご協力をお願いいたします。

- 今年も高温が予想されます。しっかり水分補給し、熱中症に注意してください。
- 農業保険（収入保険、水稻共済等）に加入しましょう。

農作業安全運動実施中！

4/1～5/31
安全な農作業を
心掛けよう！

